

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	原価計算 1 (Cost Accounting 1)					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)
2020-23 年度 入学者 (20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性
	2037-3-33-119	専門科目	選択	2 単位	3 年次	前期	資格対応科目／知識定着・確認 型 AL
2024-25 年度 入学者 (24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性
	2437-3-33-058	専門科目	選択	2 単位	3 年次	前期	資格対応科目／知識定着・確認 型 AL

① 授業のねらい・概要
原価計算は、企業における特定の経済活動単位について、原価と給付を比較計算する事である。原価計算は販売価格の設定だけにとどまらず、コストの削減や原価の作り込みなど、財務会計目的だけではなく管理会計目的としても重要である。換言すれば原価計算は企業経営者の業務的ないし構造的（戦略的）意思決定に必要不可欠な知識でもある。本講義は日商簿記 1 級の「工業簿記・原価計算」に対応し、特に原価計算 1 では個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算について学ぶ。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力
③ 授業の進め方・指示事項
日商簿記 2 級の工業簿記の知識を前提として日商 1 級範囲の原価計算を学ぶ。2 級工業簿記（工業簿記 1・2）の復習をしておくこと。毎回の授業に電卓を持参すること。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
工業簿記 1・2 に続く科目である。日商簿記 2 級工業簿記が理解できない場合、授業内容は理解できないため、これらの内容を学んだことがある学生が対象である。「原価計算 2」と共に履修することを強く推奨する。
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。
テキストは用いず、テキスト相当のレジュメを配布する。
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
岡本清 (2000) 『原価計算（六訂版）』 国元書房
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
なるべく例題以外にも問題演習を行う機会を設けたい。
⑧ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 個別原価計算について、日商検定 1 級レベルの問題に解答できる (ii) 総合原価計算について、日商検定 1 級レベルの問題に解答できる (iii) 標準原価計算について、日商検定 1 級レベルの問題に解答できる

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 高度な個別原価計算	難易度の高い検定試験レベルの原価計算ができる。	標準的な検定試験レベルの原価計算問題を合格レベルで解くことができる。	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる。	基本的レベルの原価計算問題について配布物を見ながらであれば正答できる。	基本的レベルの原価計算問題について配布物を見ながらでも正答できない。
(ii) 高度な総合原価計算	難易度の高い検定試験レベルの原価計算ができる。	標準的な検定試験レベルの原価計算問題を合格レベルで解くことができる。	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる。	基本的レベルの原価計算問題について配布物を見ながらであれば正答できる。	基本的レベルの原価計算問題について配布物を見ながらでも正答できない。
(iii) 高度な標準原価計算	難易度の高い検定試験レベルの原価計算ができる。	標準的な検定試験レベルの原価計算問題を合格レベルで解くことができる。	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる。	基本的レベルの原価計算問題について配布物を見ながらであれば正答できる。	基本的レベルの原価計算問題について配布物を見ながらでも正答できない。

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%		20%				100%
(i) 個別原価計算	25%		5%				30%
(ii) 総合原価計算	30%		10%				40%
(iii) 標準原価計算	25%		5%				30%
フィードバックの方法	出題した課題は解説する						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	ガイダンス	工業簿記 1・2 で使用したテキストの全体を概観し、工業簿記全体を復習しておく。（電卓持参）	120 分
2	工業簿記総説	レジュメを読んで工業簿記および原価計算の全体像を理解する。（電卓持参）	120 分
3	工業簿記の構造	レジュメを読んで、工業簿記の勘定連絡と財務諸表を理解しておく。（電卓持参）	120 分
4	材料費	レジュメを読むと共に、2 級範囲の材料費の復習をしておく。（電卓持参）	120 分
5	労務費	レジュメを読むと共に、2 級範囲の労務費の復習をしておく。（電卓持参）	120 分
6	経費	レジュメを読むと共に、2 級範囲の経費の復習をしておく。（電卓持参）	120 分
7	製造間接費	レジュメを読むと共に、2 級範囲の製造間接費の復習をしておく。（電卓持参）	120 分
8	個別原価計算	レジュメを読むと共に、2 級範囲の個別原価計算の復習をしておく。（電卓持参）	120 分
9	部門別計算	レジュメを読むと共に、2 級範囲の部門別計算の復習をしておく。（電卓持参）	120 分
10	仕損・作業屑	特に2 級範囲の仕損費の処理方法について復習しておく。（電卓持参）	120 分
11	総合原価計算の基礎	レジュメを読むと共に、2 級範囲の単純総合原価計算の復習をしておく。（電卓持参）	120 分
12	工程別・組別・等級別総合原価計算	レジュメを読むと共に、2 級範囲の総合原価計算の復習をしておく。（電卓持参）	120 分
13	副産物と連産品	レジュメを読み、特に副産物、連産品、作業屑の違いを理解しておく。（電卓持参）	120 分
14	標準原価計算	レジュメを読むと共に、2 級範囲の標準原価計算の復習をしておく。（電卓持参）	120 分
15	工場会計の独立	レジュメを読むと共に、2 級範囲の本社工場会計の復習をしておく。（電卓持参）	120 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。適宜課題等を課し、その解説を行うことで知識の定着を図る

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性